

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



2021 YEARBOOK



NO.117

www.jsaf.or.jp/fun/



YANMAR

A SUSTAINABLE FUTURE

—— テクノロジーで、新しい豊かさへ。 ——

人が、いつまでも豊かに暮らせること。

自然が、いつまでも豊かでありつづけること。

その2つの「サステナビリティ」をどこまでも追求し、高い次元で両立。

次の100年へ、新しい豊かさの実現に貢献していきます。



セーリングの未来へ新しいチャレンジ —ポストコロナに向けて—

日本セーリング連盟新会長 馬場益弘

2021年9月に河野博文前会長からJSAF会長を引き継ぎました。コロナ禍で東京2020が延期されたため任期途中での交代でした。ヨット専門誌にもお答えしておりますが、新体制が掲げる目標は大きく分けて2つ。まず、「オリンピックや海外レースに勝つこと」、もう一つは、「生涯スポーツとして、セーリングを位置づけていきたい」、この2つを軸として考えています。

会長就任直後に、「オリンピックで勝ちにくい体制を構築すること」を掲げました。2年後に迫った2024パリ・オリンピックではメダル獲得にチャレンジします。そして、HOPE選手、HOPE育成選手、ジュニア・ユース世代の若手セーラーの育成を実現させていきます。オリンピックでメダルを獲得できる選手を継続的に輩出できる仕組みづくりに取り組んでいきます。

もう一つは、「生涯スポーツとしてのセーリングを支援、強化すること」です。ディンギーから始まり、キールボート、障がい者セーリングなど、多様で幅広いセーリングを支援します。セーリングは、男女を問わず、年齢を問わず、障がいの有無にかかわらず、誰もが自分に合った楽しみ方ができる価値を持つインクルーシブなスポーツです。

ブなスポーツです。JSAFは、セーリングスポーツのより一層の発展のために、JSAFや加盟団体以外の人や団体に対して、セーリングの魅力を発信し、生涯スポーツとしての価値を高めていきます。

さらに、改めて申し上げるまでもなく、セーリングは自然環境の中で行うスポーツであり、環境の保全は重要な課題です。「残したいのはきれいな海」をスローガンに環境問題への取り組みを一層進めていかなければなりません。会員や加盟する団体、パートナー・サポーターとともに、海洋環境の保全に取り組み、これを社会に対して広く発信していくことが重要です。そもそも海にゴミを捨てないということを啓発していきたい。拾うことよりも捨てないようにすることのほうが重要です。海におけるマイクロプラスチックと海洋ゴミ等の削減は、常にセーラーの皆さまに「行動の呼びかけ」をしていきます。

最後に、JSAF活動の基礎である加盟・特別加盟団体の皆さま、専門委員会委員の皆さま、会員一人一人の力を得て、強いJSAFを構築していきたいと思えます。まずは、新型コロナウイルスの収束が待たれますが、「明るく、楽しく、前向き」なセーリングライフを送るうではありませんか。



私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

セーリングの価値を 社会に向けて 発信しましょう

〜日本セーリング連盟新執行部の方針〜

文責／望月宣武（常務理事）
写真／中嶋一成 レイラインメディア

新執行部の発足

2021年9月、公益財団法人日本セーリング連盟（以下「JSAF」といいます）の会長は、河野博文会長から馬場益弘会長にバトンタッチしました。河野前会長は、2011年以来10年にわたってJSAFの会長職にあり、その間に公益財団法人日本オリンピック委員会副会長、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会常務理事などを歴任され、2022年2月にはJSAFの名誉会長に就任されました。

馬場益弘会長の下、中澤信夫副会長（留任）、富田三和子副会長（新任）、中村隆夫副会長（新任）、川北達也専務理事（留任）、大村雅一常務理事（留任）、望月宣武常務理事（新任）の7名が新執行部となります。馬場会長体制においては、河野体制の施策を引き継ぎつつ、「ポスト東京五輪」の時代の変化に合わせた方針を

打ち立て、推進して参ります。本稿では、新執行部の課題意識と対策方針をご説明いたします。

ポスト東京五輪

まず、「ポスト東京五輪」がどのような時代になるのか、考えてみたいと思います。東京五輪では、開国としてひとつでも多くのメダルを獲得し、また半世紀ぶりの自国開催に向けた機運を高めるために、国家を挙げた巨大プロジェクトとして、多大な強化費とスポンサーシップ収入を得てきました。スポーツ庁が各競技団体に割り当てる強化費は、東京五輪開催決定前と比べると2.5倍にまで伸びました。また、JSAFは新たに「日の丸セーラーズ」支援のスポンサーを募集し、ありがたいことに数億円規模の支援をいただき、3回のワールドカップを開催するとともに、手厚い選手強化策を実施することができました。

しかし、東京五輪が終わり、強化

費は大幅に削減されることとなります。JSAFに限らずこの競技団体も、スポンサーシップ収入の獲得が難しくなりつつあります。もっと言えば、個人の価値観が多様化することで、スポーツそのものの地位が揺らぎつつあります。JSAFの会員は、遂に1万人を下回ることが常態化しました。少子化だけが原因ではなく、若者の海離れ、セーリング離れ、セーラーの高齢化は日本に限ったことではありません。World Sailing（国際セーリング連盟）では、このままではセーリングというスポーツそのものが消滅しかねないという危機感を共有しています。

セーリングというスポーツが、社会において存在意義を認められなければ、スポンサーシップ収入を得ることもできませんし、レースを開催し、運営することも難しくなります。今まさに、スポーツとしての「生き残り戦略」が求められているのです。これからの時代においてセーリン



グが生き残るために、「セーリング」という競技そのものの価値を高め、広めて行く活動が必要となります。これからのJSAFは、「山を高くする」という選手強化と、「裾野を広くする」という普及活動の両軸に加え、ファンやスポンサー、一般社会に向けてセーリングの価値と魅力を発信して行きます。

セーリングの価値

では、セーリングの価値とは何でしょうか。セーラーは、セーリングそのものの面白さも奥深さも十分に体感し、理解していることと思います。これを、言語化して社会に向けて発信し、伝えて、社会から認めてもらわなければなりません。

社会では、SDGs（持続可能な開発目標）という言葉が広まってきました。セーリングは、他の競技と比べて、SDGsに適合しやすいという強みがあり、SDGs推進という時代の要請に呼応できることは、セーリングの価値のひとつとなります。

SDGsに向けた取り組みの中でも、JSAFでは、「海洋環境保全」と「DEI」（Diversity, Equity and Inclusion）という2つのキーワードを大切にします。

ひとつめの「海洋環境保全」は、言うまでもなく、私たちのセーリングの場である海をきれいにしようということですが、「残したいのはきれいな海」を合言葉にして、草の根から国際大会まで様々な取組みをこれまでに以上に進めます。

ふたつめの「DEI」（Diversity, Equity and Inclusion）という言葉は、あまり聞き慣れないと思いますが、日本語に訳すと、「多様性、公平さ、インクルージョン」です。インクルージョ

ンは「包摂」という言葉に訳されることもありますが、あらゆる個人が尊重され、相互に刺激し合い、活躍できる状態を意味します。「DEI」（ダイ）とは、社会や組織、コミュニティにおいて、多様性の存在が確保され、すべての人が公平・公正に扱われ、さらに相互に認めあい、刺激し、繋がり、機能する状態をいいます。セクシャルハラスメントを撲滅し、女性理事を増やし、ジェンダー平等を推進することもひとつです。障がい者セーリングを普及させ、強化することもひとつです。セーリング競技は、2016年まではパラリンピック競技のひとつでした。しかし、東京パラリンピックで外れて、パリ大会（2024年）でも採用されないことが決まっています。現在、2028年のロスアンゼルス大会での復活に向けて世界中で連帯して頑張っているところであり、2023年1月頃にロスアンゼルス大会の競技が決まると言われている中で、2022年は重要な1年となります。2022年10月には広島県で障がい者セーリングの国際大会2つが同時開催となります。この大会は、セーリングの持つDEIの価値を広める格好な機会となるはずです。

おわりに

時代の変化のスピードは速く、先行きを見通すことは容易ではありません。ポスト東京五輪は、スポーツ界にとっては逆風かもしれませぬ。しかし、私たちセーラーは、荒波の中でも逆風の中でも、過酷な環境の中で艇を走らせることができます。この素晴らしいスポーツの価値を共有し、社会に向けて共に発信しましょう。そのためには、皆様の声を、ぜひJSAFにお届けください。



翼は、夢を見る。

勝利を夢見て、ひたすら努力するアスリートたち。

彼らの頑張りが、汗が、涙がスポーツの魅力となって輝く。

勝敗をこえた感動を、私たちに与えてくれる。

彼らのさらなる飛躍を願い、

JALはスポーツの夢を応援します。



東京2020オリンピックセーリング 日本選手団報告



©日本セーリング連盟

TOKYO 2020

2021年8月4日、東京2020オリンピックのセーリング競技が終了しました。
選手は江の島の海を全力で走り、無事にオリンピックを終えることができました。

レポート／中村健次（東京2020オリンピックセーリング競技監督） 写真／平井淳一 BULKHEAD magazine

代表選考について

オリンピックのセーリング競技10種目中、国枠獲得基準に沿った日本独自の選考方針で2020年中に9種目の日本代表を選考しました。日本ではなじみのないクラス、過去オリンピックで国枠獲得を逃したクラスも参加枠を獲得したことは、日本のセーリングが欧米諸国に近づいた証しだと言えます。10種目目となるFINN級は、World Sailingの指定した国枠獲得大会の中止が相次いだため、オリンピック選手登録締め切り直前の21年5月に国内で代表選考大会を開催し、全10種目がオリンピックの舞台で活躍することになりました。

今回のオリンピックでは、国枠獲得大会の世界選手権でトップ10に入った470級男子/女子、Laser Radial級、RS・X級男子の4種目が入賞あるいはメダル獲得の可能性がありました。そのほかのクラスも最後まで調整を行い、上位を目指しました。

本番までの強化活動

日本チームは複数のメダル獲得を目指し、それぞれのクラスが最善と考える強化計画を立案しましたが、コロナ禍により海外大会の中止や延期、渡航制限や代表選手の所属先からの渡航自粛などの想定外の事態が起こり、計画は崩れました。

一方、海外の強豪国は、コロナ禍による制限が緩み始めた20年後半になると、ライバル選手たちが集まって頻繁に練習しているとの情報が入ってきました。それが日本の代表選手たちの耳にも届き、さらに彼ら

を苦しめました。

そこで、何をすれば日本の選手のモチベーションを維持できるか、そしてレベルを上げられるかを協議し、競争原理を最大限に活用しようと考えました。国内での活動選手の多いクラスについては、パリオリンピックを目指す選手および次世代有望選手を招集して合宿を行いました。また冬期は沖縄県の協力の下に長期的な強化合宿を実施し、とにかく練習時間を確保し、スピードアップ、レース形式での練習、陸上トレーニングによる体力強化を行い、21年3月からは神奈川県神奈川県の協力を得て葉山新港で継続的に海上練習を実施しました。

一方、国内での活動選手の少ないクラスでは、所属先から許可を得た一部の選手は、徹底的なコロナ対策を行い、関係各省市・団体の指導の下、宣誓書などを調えるなど、試行錯誤を繰り返しながらなんとか準備を整え、海外へ遠征し強化を行いました。

オリンピック直前

7月13日の選手村オープンに合わせてほとんどの選手が神奈川県大磯町の選手村に入村しましたが、濃厚接触のリスクを減らすために、1クラス1部屋を基本に考えて、4人の選手はスタッフと同じ藤沢のホテルに入りました。また、レース開始日の遅いクラスは長丁場になるため入村日を遅らせました。RS・X級男子/女子、Laser級、Laser Radial級が7月25日から始まり、最終種目の470級男子/女子が8月4日までと全日程で11日間、タフなオリンピックとなりました。

大会期間中のサポート体制

オリンピック期間中、万全のサポート体制をもって臨みました。

ルール対策に関しては、会場内外にルールアドバイザー・スタッフを配置しました。その結果、大会期間中に抗議に関する失格もなく、また、日本から他国へのプロテストも自信をもって行えました。

選手の体調を支えるため、栄養サポート1人による補食の提供、ケアサポート3人による筋肉回復や打ち身などへの早期対処、アイスバスの設置など暑熱対策を行いました。

気象アドバイザーも配置しました。風の変化、潮流変化も数年にわたり継続して調査しました。しかし、年ごとに異なる地球規模の気候変動の影響もあって規則性を見いだすことができず、結果的に地元の優位性を確認するデータには至りませんでした。が、日々の予報の提供に加え、各コーチが海上での情報確認を行いました。

大会期間中の気候

毎日が30度を超す真夏日となりましたが、ほぼ予定通りのスケジュールで、予定されたレース数もすべて実施されました。21年は相模湾で吹く夏風も弱く、レース全体では軽中風域で行われ、強風域のレースはありませんでした。遠く離れた台風の影響で、夏には珍しい北、東風のレー

戦況と結果

■470級女子

吉田愛・吉岡美帆 7位/21艇中
〈メダル獲得国〉GBR、POL、
FRA

吉田・吉岡組は、中風域以上では海外選手に対して優位であると予測していましたが、その中風域以上のレースで上位を獲得できなかったことが、メダル争いが厳しくなった直接の原因です。

子育てとの両立など、多くの苦勞をしながらメダル獲得を目標に頑張ってきたチームなのでとても残念です。しかし2大会連続の入賞は、誇れる結果であると言えます。

■470級男子

岡田奎樹・外園潤平 7位/19艇中
〈メダル獲得国〉AUS、SWE、
ESP

岡田・外園組は、軽風域が得意なチームだったので、中風域以上のポイントスピードを向上させることでメダルが狙えると想定していました。初日の中風域で順位をまとめることができたのでメダルの可能性を感じましたが、後半に入ってから得意なはずの軽風域が伸びず、メダル争いから遠ざかったと言えるでしょう。それでも初出場が入賞を果たしたことはたまたまと思っています。

■49er級男子

高橋稜・小泉維吹 11位/19艇中
〈メダル獲得国〉GBR、NZL、
GER

高橋・小泉組は、ニュージーランドを拠点に活動してきた若手チームです。リオ大会金メダリストや世界選手権上位チームと練習できる環境があり、今大会はメダルレース進出を目標に大会に臨みましたが、10位まで4点という僅差で11位となりました。今後の活躍が期待できるチームです。

■49erFX級女子

山崎アンナ・高野芹奈 18位/21艇中
〈メダル獲得国〉BRA、GER、
NED

山崎・高野組は、大会前の合宿を通じて、軽風域での自信を持つまでに準備を重ねて本番に臨みました。得意な風域では上位でフィニッシュするレースができましたが、初日の沈み、軽微なケガ、リコールがあり、予想した成績を収めることができませんでした。まだ若く、今後の活躍を大いに期待したいチームです。

■FINN級男子

瀬川和正 16位/19艇中
〈メダル獲得国〉GBR、HUN、
ESP

瀬川選手は、Laser級での選考に敗れた後、20年3月にFINNに転向、短時間で体重を15kg以上増やし代表選考に臨み、代表権を獲得し

TOKYO 2020

ました。コロナ禍で選考レースが国内で開催されたため、FINNでの国際大会の経験がないままに本番を迎えましたが、オリンピック直前の江の島での練習で海外選手の技術を学び、本番ではFINNセーラーらしいセーリングを見せてくれました。

■Laser級男子

南里研二 30位/35艇中
〈メダル獲得国〉AUS、CRO、
NOR

南里選手は、08年北京以来のLaser級でのオリンピック出場を果たしましたが、実力通りの順位となりましたが、選手層の厚いこのクラスの中で、複数のレースではメダリストと同等の走りを見せる場面もありました。

■Laser Radial級女子

土居愛実 15位/44艇中
〈メダル獲得国〉DEN、SWE、
NED

土居選手は、17年世界選手権3位、20年世界選手権8位、東京オリンピックヨーロッパ予選3位と、メダル候補と言っても恥ずかしくない成績を残していました。そのため、自身でプレッシャーをかけすぎてしまっているのびとレースができなかつた観があります。序盤でメダル圏内の順位を取れなかったことから調子を崩し、最後まで立て直すことができず、持てる実力を十分に発揮しきれなかったのは残念でした。

■Nacra17級ミックス

飯束潮吹・畑山絵里 15位/20艇中
〈メダル獲得国〉ITA、GBR、
GER

飯束・畑山組は、20年末からコロナ対策を徹底した上で長期ヨーロッパ遠征を繰り返し、強化を図りました。テレビ中継では下1スタートを決めて、すばらしい場面を見せてくれました。

■RS-X級男子

富澤慎 16位/25艇中
〈メダル獲得国〉NED、FRA、
CHN

富澤選手は、本番に向け、いい状態で調整ができたことで、序盤はリスクを取らないレース戦略を取りましたが、結果的に積極性を出せず、序盤で上位を獲得できなかったことで、自らを悪循環に追い込んでしまったように思います。失敗を恐れず、思い切りの良いレースができれば、と思うと残念でした。

■RS-X級女子

須長由季 12位/27艇中
〈メダル獲得国〉CHN、FRA、
GBR

須長選手は、ロンドンオリンピックに続き9年越し2回目のオリンピック出場を果たし、入賞を目指しました。課題である軽風域で順位を安定させるために体重のコントロール、チューニングなどに取り組んできた結果、予選シリーズでは上位で

フィニッシュするレースもいくつかありました。メダルレースにはあと一步のところまで届かず残念でしたが、よく走りました。

心からたたえたい

コロナ禍の影響で活動を制限さ

れ、オリンピックの開催自体どうなるのか、さらなる感染の拡大、オリンピック開催に対する世論など、選手たちの不安や焦りは計り知れないものがありました。そんな中でも選手たちは、ただただひたむきに練習をし、できることをしつかりやっ、国民の「期待」を背負い、

自国でのオリンピックに出場し、大舞台で存分に戦ってくれました。私は、この15人のセーリング日本代表選手全員に対し「よくやった!」と心からたたえたい。コロナ禍でサポートしてくださったコーチ、スタッフの皆さまには、選手以上に苦勞をかけました。江の島で戦え

る環境ができましたことに、感謝の気持ちで一杯です。皆さん、本当にお疲れさまでした。メダルを獲得して、皆さまと喜びを分かち合うことはかないませんでした。自国でのオリンピック開催がレガシーとなり、今後のスポーツ界の発展に寄与してくれ

ると信じております。選手、サポートスタッフの皆さん、すべての関係者の方々、お疲れさまでした。このオリンピックでの貴重な経験を地元へ持ち帰り、セーリングの楽しさ、オリンピックのすばらしさを発信し、次の世代につなげてほしいと思います。



NUMBER 1 IN ONE-DESIGN



2020 TOKYO

470 Men Results

- 1 AUS Mathew Belcher / William Ryan
- 2 SWE Anton Dahlberg / Fedrik Bergstrom
- 3 ESP Jordi Xammar / Nicolas Rodriguez Garcia-Paz
- 4 NZL Paul Snow-Hansen / Dan Willcox
- 5 GBR Luke Patience / Chris Grube *
- 7 JPN Keiju Okada / Jumpei Hokazono
- 8 GRE Panagiotis Mantis / Pavlos Kagialis
- 9 USA Stuart McNay / David Hughes
- 10 TUR Deniz Cinar / Ates Cinar *

* Partial Inventory

470 Women Results

- 1 GBR Hannah Mills / Eilidh McIntyre
- 2 POL Agnieszka Skrzypulec / Jolanta Ogar
- 3 FRA Camille Lecointre / Aloise Retornaz
- 4 SUI Linda Fahrni / Maja Siegenthaler
- 5 SLO Tina Mrak / Veronika Macarol
- 6 GER Luise Wanser / Anastasiya Winkel
- 7 JPN Ai Yoshida / Miho Yoshioka
- 8 ISR Noya Bar Am / Shahar
- 9 BRA Fernanda Oliveira / Ana Barbachan
- 10 NED Afrodite Zegers / Lobke Berkhout



フラッグリレー — 東京2020応援プログラム

東京2020オリンピックを応援するために始まったフラッグリレーの概要を紹介します。

フラッグリレーは、2017年の5月に小笠原から始まって北は北海道から、南は沖縄まで日本各地を回りました。

オリンピックが1年延期となったためリレーも続行し、21年4月に三崎・横濱レースを利用して横浜までリレーされてきていました。

その後、コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言もあり動きを止めていましたが、21年7月9日に東京オリンピック日本代表選手団壮行会がオンラインで開催され、そこで日本選手団の激励の際にフラッグを披露し、フラッグリレーは完了しました。

全国各地のフラッグリレーに参加してくださった皆さん、選手への激

励サインをいただきありがとうございます。このリレーに対して、橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長より感謝状をいただきました。また、フラッグリレーの様子はJSAFのホームページにある「SAILING」に15回にわたって掲載されました。

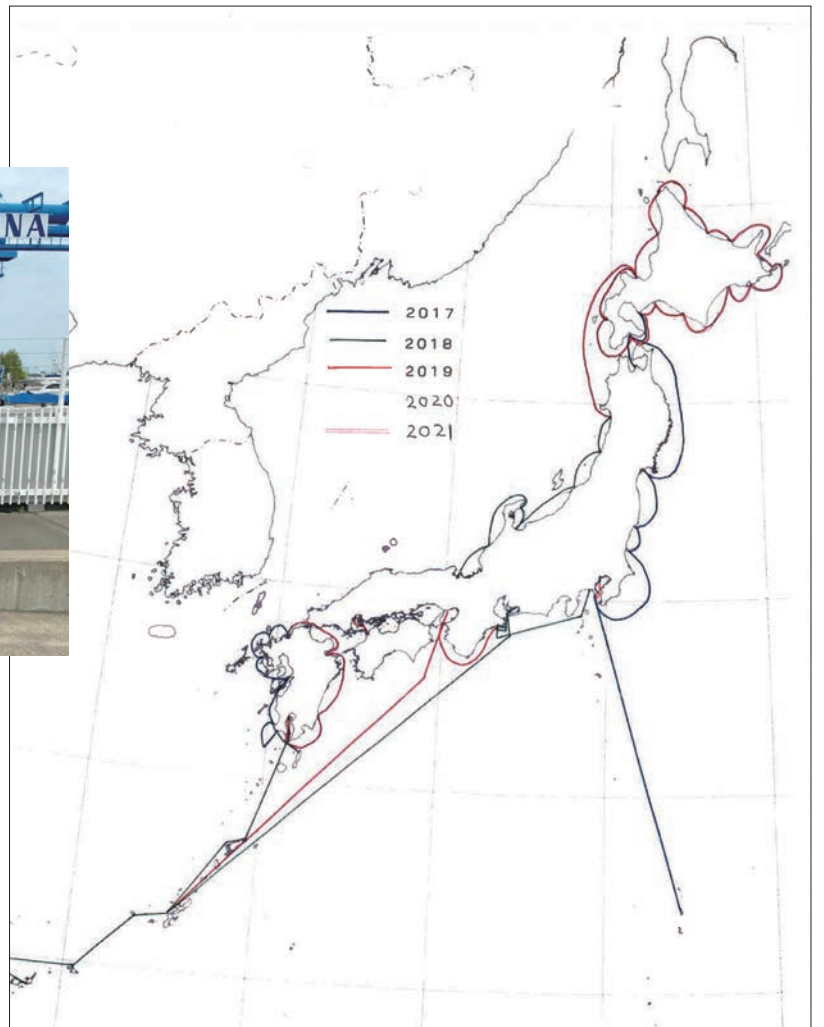
オリンピック・セーリング競技は、スタッフやボランティアの皆さんの尽力で成功裏に終わりました。日本代表の10種目の選手たちは大いに活躍し、2種目において入賞を果たしました。

ご協力いただいた関係者の方々に改めて感謝申し上げます。(菊池邦仁/JSAF理事)



21年7月のオンライン壮行会のスタジオ背景には、フラッグに書き込まれた各港セーラーのメッセージが見られる(写真提供/アルファビデオ)

北海道小樽港のフラッグ
(写真提供/廣田英夫さん・外洋北海道)



フラッグリレー走破の記録

宮崎にもリレーされたフラッグ(写真提供/宇都光伸さん・外洋南九州)

東京オリンピックに備えたオペレーターカードとボートインスペクション

東京オリンピック開催に向け、JSAFはさまざまな施策を行いました。

オペレーターカードを笑顔で受け取るWorld Sailing 役員



確認済みステッカーのデザインは外国の方にも好評

今回の制度と確認作業は海外の方々にも理解いただき、単なる作業というだけでなく、おもてなしの心も十分に発揮できた交流だったと思います。(高城秀光/篠遠満里子)

コンテナから出したリブボートの検査はとても大変な作業でした。貼付した確認済みステッカーの番号は0361まで進み、ステッカーの色合いやデザインも日本らしく、外国の方にも好評でした。

【ボートインスペクション】

国土交通省で発行したカードは海外選手に評判がよく、受け取り時は笑顔で写真撮影に応じてくれました。発行枚数は6年間で629枚。一方、申請漏れや忘れてしまった方も多く、国土交通省の担当者にはかなり無理なお願いに対応していただきました。

【オペレーターカード】

この告示は、福岡、蒲郡、境港等の国際大会に適用されました。一方、江の島・湘南海域については、海外の選手たちが東京オリンピックに向けて長期にわたり練習することが予想されたため、さらなる特例を取り、船舶免許に代わるオペレーターカードの発行、船舶検査等に代わるJSAFの確認を適時行いました。

2016年以降、東京オリンピックへ向けて日本国内でセーリングの国際大会が多数計画されました。海外からコンテナで持ち込まれる小型船舶に対応するために、日本の小型船舶免許・小型船舶検査・小型船舶登録制度を踏まえ、15年からJSAFは関係省庁との勉強会を重ね、16年9月には国土交通省の告示が出ました。



<https://www.goldwin.co.jp/hellyhansen/>

Helly Hansen Japan

@helly_hansen_jp

GOLDWIN INC. ☎ 0120-307-560

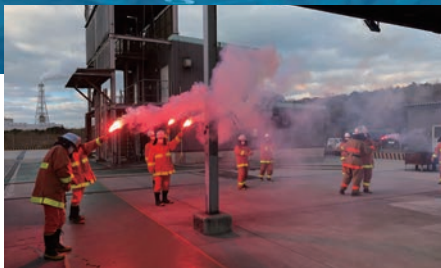
photo by Yoichi Yabe

JSAF初のサバイバルトレーニング開催

学生から70歳までの男女12人が受講したサバイバルトレーニングのレポートです。



プールで行われた海上集合実習



信号紅炎の発煙実習

JSAFとして初めて、World Sailingの外洋特別規定OSRに基づく、日本で日本人の講師が日本語で行い、JSAFの名のもとにWorld Sailing認定証を発行するサバイバルトレーニング、メデイカルトレーニングを開催しました。

これまでは、国際レース開催などに合わせ海外の講師を招聘して開催されたことはありませんでした。その場合、外国人講師の所属する海外セーリング連盟名の認定証が発行されていました。

今回、日本サバイバルトレーニングセンター(NSTC)、日本オーシャンセーラー協会(JOSA)のご協力で2022年1月14日から3日間、北九州市戸畑のNSTCで開催、大学生から最高70歳までの男女12人が受講を修了し、JSAF名のWorld Sailing認定証を受け取りました。

今後、外洋レース、長距離外洋クルージングを目指すセーラーの安全のために毎年1〜2回、開催していく予定です。(外洋常任委員会)

あなたの艇にセールナンバーをつけませんか？

2021年8月1日、セールナンバー制度規則が生まれ変わりました。

現在、船検登録のセーリングクルーザーは1万艇ほどありますが、JSAF外洋登録艇は700艇強で1割にも満たない状況です。登録艇を増やし、より安全で、より便利なシステムを構築するためには、艇をお持ちの皆さまのご協力、外洋艇登録が必要です。

今までの規則を改良し、従来に加えて、外洋艇登録業務を行う加盟団体、特別加盟団体の会員は100番先までの希望ナンバーの取得が可能になりました(有料)。

また、セールナンバー普及のために非会員でもナンバー取得が可能になりました。

詳細はJSAFホームページの【外洋艇登録】でご確認ください。お問い合わせは同ページ内掲載の外洋艇登録事務局にて受け付けます。

繰り返しです。日本中の大型艇、外洋艇に公式のセールナンバーをつけていただく制度が始まりました。セールナンバーをきっかけとして、これまでJSAFや各地域の加盟団体と疎遠だったレース艇以外のヨット乗りの方々も私たちの仲間として一緒に日本各地のヨット界をより安全に、より活性化させるきっかけになればと思います。

皆さんと力を合わせて、仲間を増やしていきましょう。(外洋艇登録事務局)

この機会にぜひご登録をご検討ください。古いナンバーの復活も可能です(条件付き)。

さらに、外洋艇登録業務強化のために21年4月1日に外洋艇登録事務局が発足しました。登録業務はもとより、いろいろなケースのご相談にも応じます。



セールナンバーを
つけて帆走ろう

オリンピック直前の湘南・片瀬海岸でビーチクリーン活動

加山雄三さんの呼びかけにより200人以上が集まり、JSAFとともに環境活動を行いました。

4人組のポップアーティストグループの湘南乃風が、加山雄三さんの音源も入れて製作した『湘南乃風その愛』という曲をリリースしたのを記念して、加山雄三さんの呼びかけにより、湘南乃風、加山プロモーション、JSAF共同で、2021年7月17日、藤沢市片瀬東浜海水浴場でビーチクリーンを行いました。

当日は、湘南乃風メンバーやファン、加山プロモーション、JSAF関係者



200人が集ってのビーチクリーン活動

が参加。ビーチクリーン開始前に参加者に海洋環境の状況を話し、終了後には参加者全員にJSAFが東京海洋大学と作成した環境パンフレットを配布しました。

ちょうど目の前の海面で、各国オリンピック選手たちが練習を始めており、浜にいた人たちにオリンピック・セーリング競技の告知も行いました。(JSAF海その愛基金海洋環境クリーンプロジェクト推進委員会)

など200人以上が集まり、その様子はNTV系の24時間テレビはじめマスコミでも流されました。

JSAFからは富田常務理事(当時・現副会長)、大村常務理事、三浦環境委員会委員などが参加。

加山雄三さんとJSAFのコラボを紹介しています



斉藤実氏「生涯スポーツ功労者」として表彰

ギネスブックにも掲載された外洋セーラーの活動は続きます。



表彰状を手にする斉藤実氏(中央)。左は阿久津壽 横浜ヨット協会理事長、右は大村雅一 JSAF常務理事

セーラーの斉藤実氏(87歳)が、文部科学大臣から2021年度の「生涯スポーツ功労者」として表彰されました。

長年にわたるスポーツ実践者であり、スポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を上げたことがその理由です。セーリングで「生涯スポーツ功労者」として大臣表彰を受けるのは初めてのこと。

例年ならば文部科学大臣から表彰を受けますが、21年は大臣表彰式が取りやめになったため、11月28日、斉藤氏が所属する横浜市磯子区の横

浜ヨット協会で大村雅一 JSAF 常務理事が斉藤氏に表彰状を手渡ししました。斉藤氏は、20年、日本セーリング連盟の推薦で日本スポーツ協会 JSP O の日本スポーツグランプリ表彰を受けています。(JSAF 事務局)

斉藤実氏
(酒呑童子)で、3回のBOCアラワン ド・アローンレース参加を含め、レース参加のための回航など単独世界一周を8回達成。また05年には71歳で単独世界一周航海をして、単独世界一周世界最高年齢(当時)としてギネスブックにも掲載された。

ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

“AS ONE, WE CAN.”
運んでいるのは、ひとり一人の毎日。



OCEAN NETWORK EXPRESS (JAPAN) LTD.

jp.one-line.com

その先の感動へ。

モータースポーツ、ヨットレース。ヤマハ発動機は国内外の様々なレースに挑戦し、その歴史に名を刻んできました。その根底にあるのはチャレンジスピリット。Revs Your Heart——心踊る瞬間、そして最高の体験を、YAMAHAと出会う人に届けます。

 **YAMAHA**
Revs your Heart



ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 <https://www.yamaha-motor.co.jp>



風をつかめ 誰よりも先に
夢を手繰りよせる その手のために



ショーワグローブ株式会社
www.showaglove.co.jp



**風に向かって…
セーリングのナショナルチームとユースチームを応援します！**

ナショナルチーム・ユースチームの海外遠征の手配、
障がい者スポーツの海外派遣、
フランスへの個人語学留学の手配、
業務渡航その他、海外への各種渡航手配を行っております。



株式会社グロリアーツアース TEL:03-6826-3434 <https://www.gloria-tours.jp>



**WEBで簡単、オーダーメイド旅行
旅づくりの専門家「トラベルコンシェルジュ」があなたの旅行を完全サポ-**

旅行会社に行かなくても大丈夫。
お客様のご要望をお聞かせください。
あなただけのトラベルプランをご提案いたします。



株式会社ウェブトラベル TEL:03-6825-8811 <https://www.webtravel.jp>



やってきた eSailing の波

JSAFのeSailing委員会は2019年に設置され、以降、eSailingのファンはその数を伸ばしています。そのイベントのいくつかをご紹介します。



オリンピック・バーチャルシリーズの対戦シーン



ナショナルチームの面々(写真/Vegas:松浦キャプテン提供)

● **eSailing 世界選手権 (eSWC)**
 年間の規定レース上位 800 人による「eSailing 世界選手権プレトーフ」が 21 年 10 月 1 日〜 3 日 (1 日目 49er、2 日目 Nacra17、3 日目 J/70 で各 20 レース) に開催され、「俊月-Yutsuki」選手が日本人として初の 5 位でファイナルへ進出。プレトーフ上位 6 人とその他指定レガッタ優勝者 4 人の計 10 人による激戦の結果は惜しくも 10 位だった。
 ※ 21 年 eSWC 出場 4 万 2045 人 (日本人プレトーフ進出 36 人)

● **ネーションズカップ (国別対抗戦)**
 「21 年 eSailing ネーションズカップ」第 1 ステージのフリートレースの上位陣は、英国、フランス、スペインの強豪国。4 位オランダ、5 位イタリア、6 位〜 8 位は同点の接戦で日本は 7 位。
 フリートレースの成績で組み合わせが決まる第 2 ステージのトーナメント戦で日本チームは 2 回戦で、優勝したフランスチームに敗退し、ベスト 8 で 21 年の挑戦を終えた。
 (1 回戦 日本 8-1 アイルランド、2 回戦 日本 2-7 フランス)
 昼練や夜練では前年度ナショナルチームメンバーや今後活躍が期待できる成長中のプレーヤーも参加し、オールジャパンとして臨んだネーションズカップだった。
 日本 VR クラブのいいいなサポートや高度な情報提供、人気のバルクヘッドカップなどでトップクラスの選手のけん引、ビッグイベントでの活躍、海外レガッタへの積極的な参戦の刺激もあり、新たなプレーヤーの挑戦も増えている。22 年の世界選手権ファイナルや各レガッタで日本人対決が行われることを期待している。(尾形依子/eSailing 委員会)

● **オリンピック・バーチャルシリーズ**
 東京オリンピックに合わせて国際イベント「オリンピック・バーチャルシリーズ」の開催を発表し、

HARKEN®

MORE POWER TO CHANGE GEARS



Unit 1 Reflex™ Furling System

Asymmetric Spinnaker, Code0

| Reflex ファーラーシステム |

ハーケンリフレックスファーラーシステムはアシンメトリックセールのファーリングに特化したモデルです。様々なオプションをラインナップすることでジェネカーやコード0 など様々なセールに対応しています。トップスイプルとドラム上部にあるタックターミナルを追加することで、一つのドラムで複数のセールに使用することが可能になりました。複数のセールを持つレーシングチームに新たな選択肢をご提案します。

MKIV Jib Furling System

| MK4ジブファーラーシステム |

従来製品よりトップスイプルとドラムに多くのボールベアリングを使用することで回転性能を大幅に向上させたモデルです。また、ドラムを取り外すことでレーシングセールを使用することが可能となります。さらにダブルグループはレースシーンにおいて、よりスムーズなセールチェンジを実現しました。クルージングポートからレーシングポートまで幅広く使用出来るシステムです。

UNIT0/22-30ft UNIT3/45-60ft
 UNIT1/28-36ft UNIT4/65-80ft
 UNIT2/35-46ft

MKIV Ocean Jib Furling System

| MK4オーシャンファーラーシステム |

MK4 ファーラーと同等の耐久力を備えながらも、取り外し式ドラムやダブルグループ等の機能を省き、多くのクルージングユースに特化することで、高いコストパフォーマンスを実現したオーシャンクルージングモデルです。

UNIT0/22-30ft UNIT3/45-60ft
 UNIT1/28-36ft UNIT2/35-46ft

harken.jp



[ハーケンジャパン株式会社]
 〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 2-42 TEL:0798-22-2520

[ハーケンサプライ合同会社]
 〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内818 TEL:046-876-5010



QUANTUMSAILS™
- TO THE NEXT CHALLENGE -



グランプリ&ワンデザインでの勝率の高さ、
ACやTP52シリーズに代表される開発力、
Quantum Sail は進化を続ける。

クァンタム・ジャパン

新規セール、セール修理、ロープ&艀装品、
マストを含むリグメンテナンス等。
お気軽にご相談下さい。

www.wattsmarine.jp
info@wattsmarine.jp

(株) セイルズ・パイ・ワッツ・ジャパン
本社ロフト

〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町8-40
電話：046-882-5451 Fax：046-882-4319

関西営業所

〒662-0933 兵庫県西宮市西波止町1-2
マリンスクエア M-1
電話：0798-23-6410

topics 9

いつでも、どこでも、だれでも セーリングを！

「東京都障害者スポーツ大会オープン競技障害者セーリング」開催

右：参加した選手、
スタッフの皆さん
下：東京都障害
者スポーツ大会。
17艇22人が参加



「一般社団法人パラセーリング東京」は2019年のクリスマスマスイブに設立され、JSAFから「パラセーリング普及強化推進拠点」として指定を受けた「東京・若洲ヨットハーバー」で1997年から障害者セーリングの普及強化活動を行っている「東京都障害者セーリング連盟」

ともに競技スポーツ参加者の裾野を広げることを目的に行われた。参加艇数17艇、競技種目はHansa303（ダブル・シングル）、Hansa23（シングル）で行われた本大会は、22年度以降も継続して開催されることになった。開催予定は11月。（國松・高間・浜崎）

と共に活動を開始した。20年は体験会7回、強化練習2回に300人近くの人が集まり、21年はJSAF特別加盟団体に承認された。21年11月7日には主催「東京都」、「公益財団法人東京都障害者スポーツ協会」、後援「江東区」として「第22回東京都障害者スポーツ大会オープン競技障害者セーリング」を若洲で開催し、本格的に始動した。

この大会は World Sailing

が目指すインクルーシブ大会

であり、障害の有無を問わず

取り組めるセーリングスポー

ツとして、障害のある方のス

ポーツへの参加を推進すると

ともに競技スポーツ参加者の裾野を

広げることを目的に行われた。

参加艇数17艇、競技種目は

Hansa303（ダブル・シングル）、

Hansa23（シングル）で行われた

本大会は、22年度以降も継続して開

催されることになった。開催予定は

11月。（國松・高間・浜崎）

キールポート強化委員会からのお知らせ



2021年11月に葉山で行われた伊藤園 Women's Cup2021のワンシーン

キールポート強化委員会は普及活動として、ビギナーセーラーやデザインセーラー等をキールポートに導く活動を行っています。2022年度は葉山マリーナヨットクラブと協業して下記を企画し、参加者の募集を行っています。

<春のクリニック>

- 目的：若手のキールポートの技術知識取得
- 開催日：2022年6月25日予定
- 対象者：おおよそ30歳までの男女
- 使用艇：Y30/4艇
- 講師：ノースセール
- 参加費用：未定

問い合わせは下記へ。

キールポート強化委員長・金子純代 smy4886@gmail.com

<秋のレース>

- 開催日：2022年10～12月に開催予定
- ニッポンカップにおいて若手セーラーチームによるY30×4艇のエキシビジョンレースを企画中
- エントリーフィー：未定

オーキッド美容クリニック東京御徒町
2022年1月 新規オープン

病院

北柏リハビリ総合病院(247床)

健診センター

柏健診クリニック
汐留健診クリニック

クリニック

西浦眼科
梅郷整形外科クリニック(13床)
天宣会循環器・睡眠呼吸クリニック

介護老人保健施設

梅郷ナーシングセンター(124床)
北柏ナーシングケアセンター(120床)

介護老人福祉施設

みゆきの郷(120床)
流山こまぎ安心館(110床)
かしわ安心館(110床)

在宅介護・福祉用具

エンゼル・サービス柏
(訪問介護・在宅介護支援
・介護支援ショップぬくぬく)

訪問看護

北柏訪問看護ステーション



「感謝な心」で
信頼の医療サービスを
ご提供いたします

居宅介護支援

梅郷ナーシング居宅介護支援事業所
北柏リハビリ総合病院居宅介護支援事業所
居宅介護支援センターみゆき
居宅介護支援事業所 こまぎ安心館
居宅介護支援事業所 かしわ安心館

研究

日本成人保健医療問題研究所



千葉エンゼルクロス

女子バレーボールチーム(Vリーグ所属)

天宣会グループ 〒277-0021 千葉県柏市中央町1-1
TEL.04-7167-6667(代表)



医療法人社団 天宣会



社会福祉法人 天宣会



株式会社 日本エピー総合企画

REACH BEYOND

今の自分を超越することは、簡単じゃない。

目標に向かって挑戦し続けても、前に進めない不安。それでも諦めない人には、
どんな景色が見えているのか。認め合える競争相手、信頼できる仲間、自分を見つめ直す時間…
そこには、きっと、さらに先へ進み続けるための何かがある。私たちが寄り添い、
一緒に越えていくために、新しい想いとメッセージを届けたい。性別や年齢、立場に関係なく、
挑戦し続ける気持ちを持ち続ける人たちへ。さあ、一緒に越えていこう。

いつも、その先に向かって。

mizuno.jp 0120-320-799

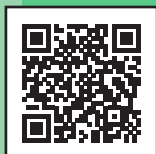


舵社が
発信!

4つのニューメディア

デジタル版 Kazi&BOATCLUB

お役立ち情報満載、ヨット&ボートの月刊誌2誌のデジタル版です。紙の雑誌と比べると、内容はほぼ同じで、価格はお得な『Kazi』1,080円、『ボート倶楽部』882円（いずれも税込み）。



KAZIonline

船遊びの情報サイト「KAZI online」では、マリンに関する最新&とっておきの情報を毎日発信中。圧倒的な情報量で、多くのヨット、ボート、フィッシング愛好家から支持されています。



ヨットの情報が
盛り沢山! たとえば――

KAZIonline

堀江謙一さん、
最高齢での単独無寄港
太平洋横断に出航



Kazi Movie

ヨット&ボートの走行シーンを中心に、各種ハウツー動画も満載されている舵社の公式 YouTubeチャンネル。ここでしか観られない動画は必見です。毎週金曜日に新しい動画を更新中。



KAZI オンラインショップ SEA PLAZA

2,000点近くのマリングッズがそろったオンラインショップ。憧れのブランドのアイテムから、ほかでは手に入らないレアものまで、ヨット&ボート愛好家の“欲しい”にお応えしています。



Kazi Movie

ヨット紹介動画＝
全長7.7mの小さな外洋ヨット
「ジャンゴ7.70」



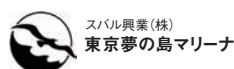
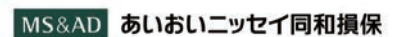


環境キャンペーン協賛社

JSAF賛助会員



外洋キャンペーン協賛社



2021年の話題は何と言っても東京オリンピックでした。470級男女がともに7位入賞となり、2024年のパリオリンピックに弾みをつけました。表紙真ん中の選手の集合写真はJSAFオリンピック強化委員会コーチ撮影、海上のセーリング写真は平井淳一さんの撮影によるものです。

J-SAILING No.117
 2022年3月31日発行 通巻471号
 発行 / 公益財団法人日本セーリング連盟広報委員会
 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階 902号室
 電話 03-6447-4881 ファクス 03-6447-4882
 E-MAIL head@jsaf.or.jp
 発行人 / 馬場益弘 編集人 / 柳澤康信
 エディター / 豊崎謙 デザイナー / 松岡雅子
 定価 / 300円 (JSAF会員は会費に購読料が含まれています)
<https://www.jsaf.or.jp/fun/>



日の丸セーラーズ

SAILING Team JAPAN

オフィシャルパートナー



オフィシャルサプライヤー



サポーターメンバー



みなさまのご声援が追い風になりました。
ありがとうございました。



ヤマザキビスケット

ビター
& スイート
の絶妙なおいしさ。



2022年3月31日発行 通巻471号

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION

定価300円

NO.117